

ストップ!

特定外来生物



【特定外来生物】
カミツキガメ

写真：静岡大学教育学部 加藤英明

ふじのくに 特定外来生物対応リーフレット



静岡県



最初はペット
だったんですが
捨てられました

カミツキガメ

今、静岡県の生態系が 「特定外来生物」に 脅かされている!?

人間の活動によって本来のすみかからそうではない場所に連れて来られた「外来生物」。その中でも、特に自然への悪影響が心配されるものを「特定外来生物」といい、環境省の「外来生物法」によってその取り扱いが厳しく規制されています。

令和5年4月現在、日本には約2,000種の「外来生物」がいて、そのうち「特定外来生物」に指定されているものは156種類。(うち静岡県内で発見されているのは38種類) 飼いきれなくなったり捨てられたり、気兼ねな気持ちで放流されたり、はたまた、船の積み荷に紛れ込んで来たり…人間の都合によって日本の自然にすみついた彼らは、知らないうちに、日本の生態系を壊しはじめています。



動物園から
逃げました

クリハラリス



食用にされて
いたのに、捨て
られました

ウシガエル



船に乗って来て、
コンテナの中で
発見されました

ヒアリ(写真は女王アリ)



観賞用として
持ち込まれ
ました

オオキンケイギク

「特定外来生物」の 目に見えない怖さ

人間が気づかいうちに、
生き物の世界は変化しています。

本来のすみかとは違う環境で生き残るということは、在来の生き物をしのぐ高い環境適応能力や繁殖力を持っているということ。知らず知らずのうちに在来生物に影響を与え、結果的に生態系にダメージを与えてしまうかもしれません。

もともとすんでいた
在来の生き物を食べてしまう



在来生物の食べ物や
すみかを奪ってしまう



種類が近い在来生物と
交雑して、雑種が生まれる



地域に存在しなかった
病気や寄生虫をもたらす



実は意外にも、 あなたの暮らしに影響が…

「特定外来生物」なんて関係ないと思ってませんか？
それは間違いです。



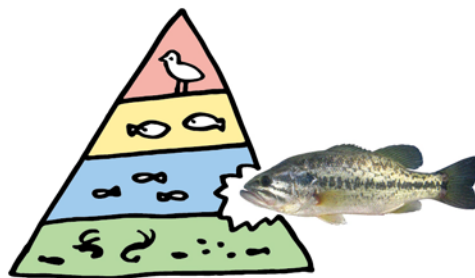
人体への被害

「特定外来生物」の中には毒を持つものや攻撃的なものもあります。思わぬ病気やケガをするかもしれません。



農林水産業への被害

畑の作物を食べてしまうほか、水質を悪化させて漁業に影響を与えたりと、被害は深刻です。



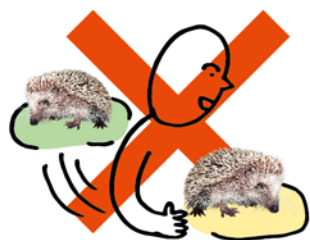
生態系への被害

生態系とは地域の生き物たちが長い年月をかけて作り上げてきたもの。生態系のバランスが壊れたとき、その被害は計り知れません。一度壊れたバランスをもとに戻すことは、とても難しいのです。

肝心なのは「特定外来生物」をこれ以上、増やさないこと！

「特定外来生物」から生態系を守るには、人間が気をつけることが何より重要。外来生物を扱うときには、3つの約束「外来種被害予防三原則」を守りましょう。

※特定外来生物である植物を駆除する場合は、ごみの焼却施設への運搬など、一定の条件下であれば生きたままの移動が可能です。



1. 入れない

もともと地域にすんでいなかった生き物を、勝手に持ち込まないでください。



2. 捨てない

特定外来生物などを飼っている場合は、最後まで必ず責任を持って管理しましょう。



3. 拡げない

放流したり移植したり、特定外来生物などを移動させないでください。

「特定外来生物」の駆除にご協力をお願いします。

「特定外来生物」そのものに罪はありませんが…

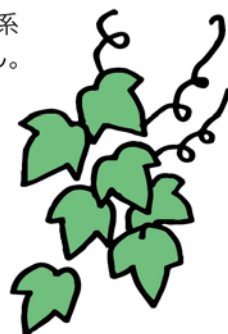
「特定外来生物」による被害を最小限にとどめ、静岡県の実態のバランスを維持するためには、早めの対処が欠かせません。見つけたら駆除。みなさまのご協力をお願いします！

哺乳類・鳥類の場合



発見した市町か、最寄の県農林事務所に連絡する

「特定外来生物」とはいえ、野生の鳥や獣を無許可で捕獲することは禁止されています。ケガをする恐れもあるので、まずは連絡してください。



植物の場合

できる限り駆除する



両生類・爬虫類・魚類・昆虫類の場合

カエルや魚、昆虫など人に危害を加える可能性が低い生き物なら

なるべくその場で殺処分

ご協力いただくと助かります。
(県自然保護課より)



ヒアリやゴケグモ類、カミツキガメなど毒やケガの危険性がある生物なら

次のどちらかに連絡する

静岡県自然保護課

☎ 054-221-3332

環境省関東地方環境事務所

☎ 048-600-0817

みんなで静岡県の生態系を守りましょう。
「特定外来生物」に関する
お問い合わせや目撃情報はこちらまで！

静岡県くらし・環境部環境局 **自然保護課**

☎ **054-221-3332**

または、shizenhogo@pref.shizuoka.lg.jp

外来生物についてもっと詳しく知りたい方は

◎ 静岡県で発見されている外来生物のこと



静岡県公式ホームページ
「外来生物について」

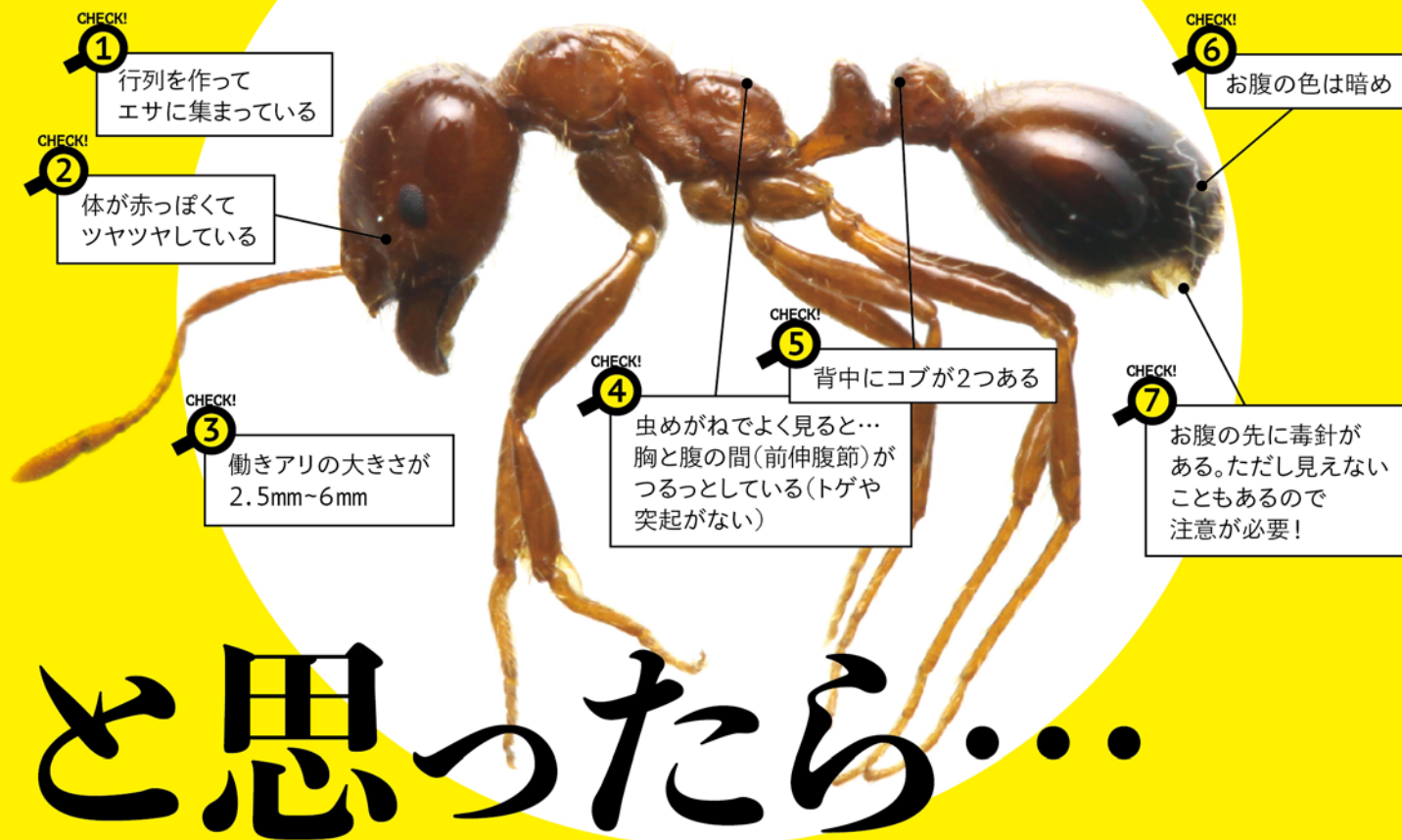
◎ 外来生物法や見分け方について



環境省ホームページ
「日本の外来種対策」

令和5年4月1日より、ヒアリ類が「要緊急対処特定外来生物」に指定されます。

ヒアリかな…?



と思ったら…

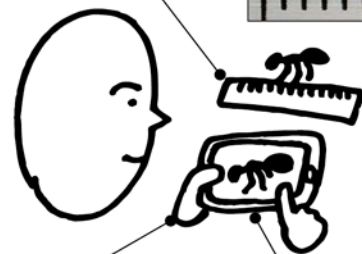
ヒアリ(よく似たアカカミアリも同じ)を見つけてしまった時の対処法はコチラ! みんなで正しく、ヒアリが増えるのを防ぎましょう。あわてず焦らず、STEP1~4を実行してください。

- STEP 1 **素手で触らない!**
刺されるとじんましんや熱が出ます。
- STEP 2 **市販のスプレー式殺虫剤か熱湯で殺虫する。**
- STEP 3 **最寄りの市町または静岡県自然保護課に連絡する。**
- STEP 4 **写真を撮る。**
(連絡を受けた県自然保護課が専門家に判別を依頼します)

上手な写真の撮り方

よい写真の例

大きさがわかるようにものさしも一緒に写す



角度を変えて何枚か撮る

ピンボケしないように注意して、なるべく画面いっぱい

ヒアリに関する連絡先・お問い合わせ
静岡県 暮らし・環境部環境局 自然保護課

☎ 054-221-3332

夜間・休日は県庁守衛室へ ☎ 054-221-2072

ヒアリについてさらに詳しく紹介しています

◎ 静岡県ヒアリ対応マニュアル

“ヒアリ”ハット!



静岡県の主な「特定外来生物」一覧

普段目にするあのお花…こないだ見かけたあ



夜行性

長くて鋭い前歯に注意。
しかもオレンジ色

体長50~70cm
体重4.5~7kg

●「日本の侵略的外来種ワースト100」ランクイン

ヌートリア

◎浜松市や湖西市など県西部地域 原産地：南アメリカ

田んぼや川の土手に巣穴を作って作物を荒らし、西日本では稲作や根菜類への大きな被害が報告されている。また、水草を大量に食べるので、様々な生物の脅威となる可能性もある。

写真：(地独)大阪府立環境農林水産総合研究所

●「日本の侵略的外来種ワースト100」ランクイン

アライグマ

◎静岡市や浜松市など 原産地：北アメリカ

小さな動物から昆虫、魚、そして野菜や穀物まで何でも食べる。ニホンザリガニやエゾサンショウウオなどの日本の固有在来種が食べられたり、畑が荒らされたり…特に北海道で深刻な状況。狂犬病に感染する恐れもある。

しましまのシッポ

黒いマスクをしたような顔

体長41~60cm
体重4~10kg

夜行性

指が細長い

写真：環境省



体長35~55cm
体重6~10kg

昼行性

ニホンザルと違って
シッポが長い

●「日本の侵略的外来種ワースト100」ランクイン

タイワンザル

◎南伊豆町(大根島) 原産地：台湾

動物園から逃げ出したりして、自然界に定着してしまった。果物や畑の作物など農業被害が深刻。また在来のニホンザルと簡単に交雑してしまうので、ニホンザルの遺伝的攪乱が問題になっている。

写真：Alamy Stock Photo

●「日本の侵略的外来種ワースト100」ランクイン

ガビチョウ

原産地：東アジア、東南アジア

ペットとして連れて来られたものが野生化してしまった。在来の鳥との競争に強く、ガビチョウがすみついた地域では生態系に変化が見られる例も…。将来的な悪影響が心配されている。

大きくて複雑な鳴き声

目の周りに白い筋がある

体長20~25cm

あまり高く飛ばない

写真：環境省

ハリネズミ属

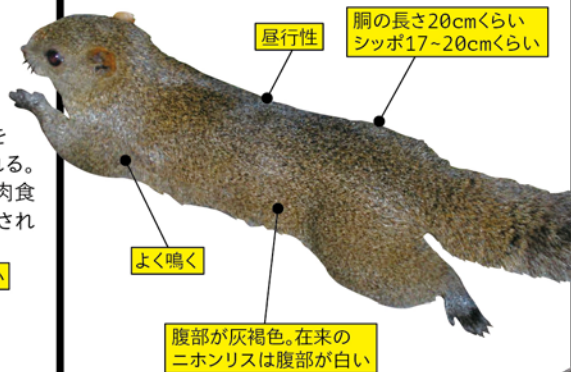
◎伊東市 原産地：ヨーロッパ~中国

ペットとして輸入されてきたが、逃げたり捨てられたりして野生化。鳥の卵やヒナ、昆虫などを食べるので、ほかの生物への悪影響が考えられる。特に、日本にはハリネズミのように地上を這う肉食哺乳類が少ないので、その影響の大きさが心配されている。

夜行性

23~37cmくらい

写真：静岡大学教育学部 加藤英明



昼行性

胴の長さ20cmくらい
シッポ17~20cmくらい

よく鳴く

腹部が灰褐色。在来の
ニホンリスは腹部が白い

クリハラリス

(別名：タイワンリス)

◎浜松市や伊豆半島東海岸 原産地：アジア全域

近年急速に生息範囲を広げていて、日本在来のニホンリスと競合する可能性が指摘されている。また、木の皮を剥いでしまったり農作物を荒らしたり、農林業への被害が報告されている地域もある。

写真：環境省

カナダガン

◎富士宮市(田貫湖) 原産地：北アメリカ

日本在来の「シジュウカラガン」などとの交雑が懸念されているほか、警戒心が高まる繁殖期には、人に攻撃する可能性もある。稲を食べて田んぼを荒らすことも。

2015年に国内の駆除が完了したとされているが、引き続き観察が必要。



在来種「シジュウカラガン」より、体もくちばしも大きい

最大110cmくらい

写真：環境省



10~20羽で群れを作る

大きな声でよくさえずる

体長15cm

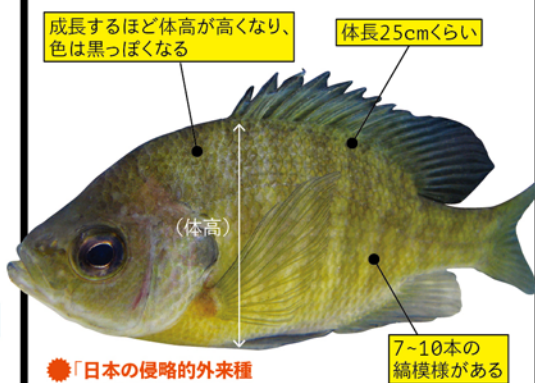
●「日本の侵略的外来種ワースト100」ランクイン

ソウシチョウ

原産地：東アジア、東南アジア

姿がきれいなので、ペットとして江戸時代から飼われていたし、糞が高級化粧品として需要のあるウグイスの糞の代替品として使えるため、産業目的でも飼育されてきた。しかし野生では在来の鳥類、メジロやウグイスと競合するなど、鳥類に与える影響が心配される。ハワイでは、ソウシチョウの影響で固有の鳥が衰退してしまったとの報告もある。

写真：PIXTA



成長するほど体高が高くなり、色は黒っぽくなる

体長25cmくらい

(体高)

7~10本の縞模様がある

●「日本の侵略的外来種ワースト100」ランクイン

ブルーギル

原産地：北アメリカ東部

釣り用に持ち込まれたものが日本各地の湖や沼、池などに定着した。一度すみつくともほかの魚類を衰退させてしまう。雑食で、昆虫や水草、貝類のほか、在来の魚類の稚魚も食べてしまう。漁業への影響も大きく、全国で問題になっている。

写真：(地独)大阪府立環境農林水産総合研究所



体長18cm以上

口に入る大きさなら何でも食べる

●「日本の侵略的外来種ワースト100」ランクイン

ウシガエル

原産地:アメリカ東部・中部、カナダ南東部

もとは食用として輸入され各地で養殖されていたものが、野生に広まってしまった。絶滅が心配されている日本在来の両生類やザリガニなどを食べてしまい、生態系への影響と被害が報告されている。

写真:(地独)大阪府立環境農林水産総合研究所

●「日本の侵略的外来種ワースト100」ランクイン

カミツキガメ

●三島市など 原産地:北アメリカ～中米

ペットとして流通していたが、捨てる人が続出。何でも食べることから魚類や両生類への影響も心配されている。何よりあごの力がとても強く、人間の指を噛みちぎってしまうほど。絶対にちよっかいを出さないこと。大ケガの危険あり!

甲羅最大50cm
体重は最大34kg

長いシッポ

首がかなり長く伸びる

写真:環境省

スウィンホー キノボリトカゲ

●磐田市 原産地:台湾

背中がギザギザしてる

頭が大きくて後ろ足が長い

全長20~30cm

アリやクモ、チョウの幼虫などいろいろな生き物を食べてしまうので、様々な昆虫への影響が心配されている。同じ生物をエサとする鳥や虫への影響も考えられる。

写真:静岡大学教育学部 加藤英明

(平成30年4月1日指定)

ガー属

原産地:北アメリカ～メキシコ

タイルのような固いウロコ

全長1m~3m

細長い口にフニのような歯

アリゲーターガーやスポテッドガーなど、世界最大級の肉食淡水魚であるガー属。恐竜時代から姿を変えない古代魚でペットとしても人気だが、飼いきれずに捨てられ野生化。ほかの魚や甲殻類を食べ、日本在来の水生生物への影響が心配されている。

写真:静岡大学教育学部 加藤英明

チャネル キャットフィッシュ

(通称:アメリカナマズ)

原産地:北アメリカ

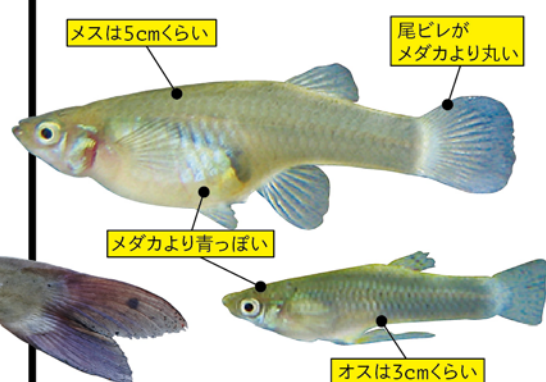
日本在来のナマズより平たかない

ヒレと胸ビレに鋭いトゲがある

全長1m以上

魚のほか、甲殻類や貝類、昆虫や小さな哺乳類まで食べる。アメリカでは食用として利用されていて、日本にも水産目的で輸入されたが、何でも食べることからほかの生物への影響が大きく、生態系の破壊が懸念されている。

写真:PIXTA



メスは5cmくらい

尾ビレがメダカより丸い

メダカより青っぽい

オスは3cmくらい

●「日本の侵略的外来種ワースト100」ランクイン

カダヤシ

原産地:北アメリカ

汚れた水の中でも生息でき、繁殖力も強い。虫や水草のほか、同じカダヤシを含む稚魚も食べてしまうなど、他の水中生物への影響が深刻。噛みついたり、稚魚を食べたりして、在来のメダカを駆逐してしまう。

写真:(地独)大阪府立環境農林水産総合研究所

●「日本の侵略的外来種ワースト100」ランクイン

コクチバス

原産地:北アメリカ

釣りを楽しむために持ち込まれたが、今では世界的に問題になっている魚。食欲が旺盛で、コクチバスがすみついた地域では在来種の減少が報告されるなど、固有の生態系への悪影響が深刻。

成魚で体長30~50cm

口の端が目の下より前にあるのがオクチバスとの違い

黒っぽいマダラ模様は成長すると薄れる

写真:(地独)大阪府立環境農林水産総合研究所



成魚で体長30~50cm

口の端が目の下より奥にあるのがコクチバスとの違い

不規則な斑点模様

●「日本の侵略的外来種ワースト100」ランクイン

オクチバス

(別名:ブラックバス)

原産地:北アメリカ

ルアー釣りの人気種として違法に放流されてきたとみられるが、全国で深刻な影響が。オクチバスがすみ場所では、絶滅が危惧される在来の魚がいなくなったり、急激に数を減らしたりしている。これによる生態系の変化も報告されている。

写真:(地独)大阪府立環境農林水産総合研究所

●「日本の侵略的外来種ワースト100」ランクイン

ラスティー クレイフィッシュ

原産地:北アメリカ

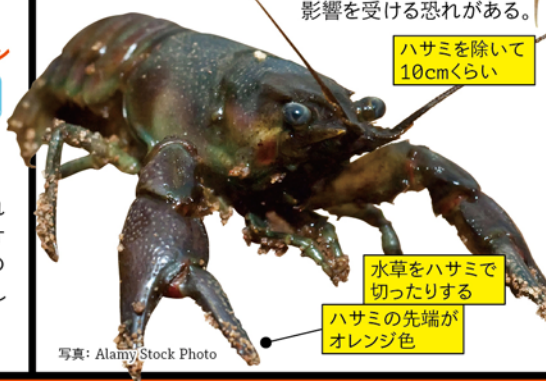
雑食で何でも食べるので、在来ザリガニのエサを奪ってしまったり、魚の数を減少させたりと、水生生物への影響が大きい。また「ザリガニカビ病」の菌を持っていて、万が一ホンザリガニが感染すると、壊滅的な影響を受ける恐れがある。

ハサミを除いて10cmくらい

水草をハサミで切ったりする

ハサミの先端がオレンジ色

写真: Alamy/Stock Photo





ヒアリ

清水港などで確認 原産地：南アメリカ

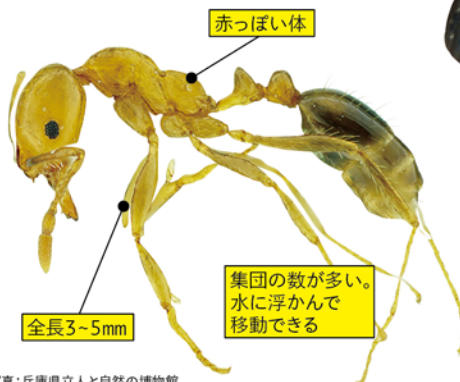
毒を持ち、刺されると非常に激しく痛み水泡状に腫れてしまう。毒に対してアレルギー反応を起こす例もアメリカでは数多く報告されていて、とても危険。攻撃的で、昆虫だけでなく、集団で鳥のヒナを襲うこともある。農作物に与える被害も大きい。清水港では根絶されたが、引き続き観察が必要。

写真：環境省

アカカミアリ

清水港などで確認 原産地：アメリカ合衆国南部～中米

攻撃的でエサに貪欲。ほかの虫などを食べてしまい、生物多様性への影響が深刻。硫黄島ではほかのアリ類を駆逐して、最も強いアリになってしまった。ヒアリと同じく毒を持ち、刺されると腫れて痛い。毒へのアレルギー反応も報告されていて、とても危険。清水港では根絶されたが、引き続き観察が必要。



写真：兵庫県立人と自然の博物館



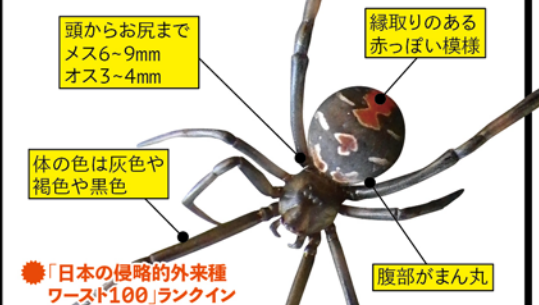
(平成30年1月15日指定)

アカボシゴマダラ

原産地：ベトナム～朝鮮半島

人為的に大量に日本に放たれたようで、関東地域に広く生息している。地域によっては絶滅が危惧される在来のチョウ、オオムラサキやゴマダラチョウと同じエサを食べるので、競合が心配されている。

写真：PIXTA



日本の侵略的外来種ワースト100 ランクイン

ゴケグモ属

(セアカゴケグモ、ハイロゴケグモ等)

東名高速道路沿線など

原産地：オーストラリア、中南米、アフリカ、アジアなど

世界中にいろいろな種類がいて、日本へは貨物に紛れて侵入したと考えられる。毒を持ち、咬まれると頭痛や筋肉痛、熱が数週間続いたり、ひどい場合には進行性の筋肉麻痺の恐れもある。ブロック塀やフェンスの隙間、側溝などに巣を作る。

写真：環境省

アルゼンチンアリ

静岡市(清水区) 原産地：南アメリカ

繁殖力と競争力が高く、アルゼンチンアリの影響で日本在来の昆虫などが減ってしまう可能性がある。在来のアリが駆逐されてしまったり、農業への被害や人家への侵入も報告されている。



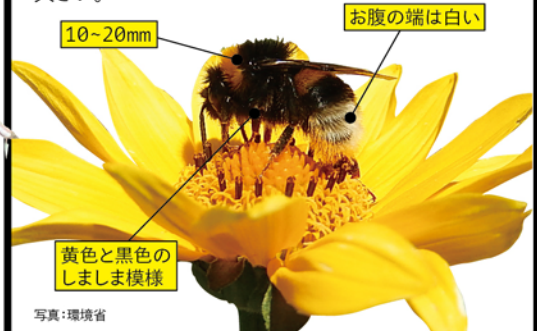
写真：環境省

日本の侵略的外来種ワースト100 ランクイン

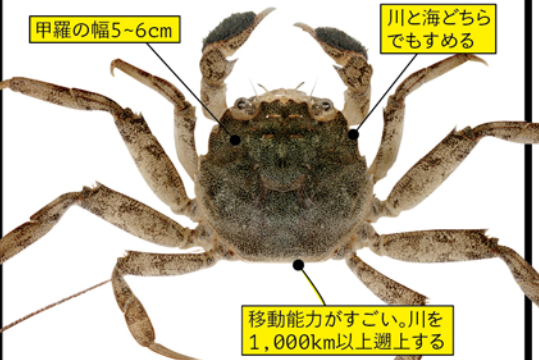
セイヨウオオマルハナバチ

原産地：ヨーロッパ

トマトなどの作物の受粉をさせるため、農業用に輸入されてきた。しかし日本固有のマルハナバチに悪影響を与えることがわかり、特定外来生物に。在来種の駆逐や交雑が心配されている。さらに在来マルハナバチの減少は在来植物の繁殖にも影響するので、影響は大きい。



写真：環境省



モクズガニ属

(通称：上海ガニ・チュウゴクモズガニ)

原産地：朝鮮半島西岸～中国沿岸部

食材として生きたまま流通しているが、野生化するとその被害は深刻。土手に2mもの長さの巣を作り、海外では大発生時に河口部の堤防が浸食され、地域の生態系が崩壊してしまった例も。在来のモクズガニへの感染症をもたらしたり、交雑の恐れもある。

写真：Alamy Stock Photo



日本の侵略的外来種ワースト100 ランクイン

カワヒバリガイ属

原産地：東アジア～東南アジア

魚の病気を媒介する吸着生物を宿している可能性があり、国内でも過去に魚類の病気を引き起こしている。在来の二枚貝類に付着して、その呼吸や摂食を妨げて死なせたり、大量発生時には水流を妨げて水質を悪化させたり、水辺の環境に悪影響を与えている。

写真：(地独)大阪府立環境農林水産総合研究所

日本の侵略的外来種ワースト100 ランクイン

オオフサモ

原産地：南アメリカ

水を浄化させる作用があるとして水槽やビオトープに植えられてきたが、繁殖力が強く、在来水草への影響が心配されている。湖から水路までどこでも生え、大繁茂すると、水流を妨げて水質を悪化させたり、ほかの生物の生息・生育環境に悪影響を与えたりする可能性がある。



写真：(地独)大阪府立環境農林水産総合研究所

オオハンゴウソウ

(通称: ルドベキア、ハナガサギクなど)

原産地: 北アメリカ



7~10月に花が咲く。
直径6cmくらい

50cm~成長すると
3mにもなる

水が豊富な肥沃な土地、湿原などに生える。公園などの緑化や観賞のために輸入されたが、繁殖力がとても強く、在来の植物をおしのけて広がってしまう。北海道や栃木県など、在来の貴重な植物が残る国立公園でも被害が深刻で、駆除作業が急がれている。

写真: 環境省

ナルトサワギク

原産地: マダガスカル、東アフリカ

厳しい環境にも耐え繁殖力がとても強いので、在来種との競合が心配される。毒もあり、家畜などの草食動物が食べると中毒の危険性も。海外では牧草地で繁殖して問題になっている。



2cmくらいの
黄色い花が
一年中咲く

ギザギザの葉っぱ
高さ20~50cmくらい

大きな株から茎が
何本も分かれる

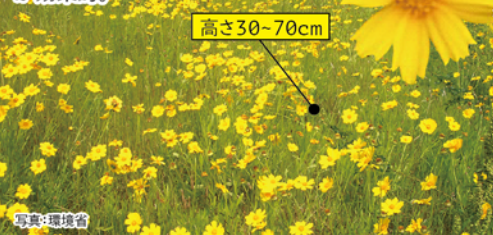
写真: 環境省

「日本の侵略的外来種ワースト100」ランクイン

オオキンケイギク

原産地: 北アメリカ

道路際や河川敷でよく見かける。厳しい環境に強く、在来植物の繁殖に影響を与え、弱らせてしまう例が報告されている。もともと緑化用や鑑賞用に持ち込まれ、黄色い花が住民に親しまれている場合もあるが、駆除するには梅雨時期に抜き取るのが効果的。



5~7月に花が咲く

高さ30~70cm

写真: 環境省



つるの長さは
10m~数10mにも

ザラザラした葉っぱ。
茎には毛が生えている

夏に花が咲く。
実にはトゲがある

「日本の侵略的外来種
ワースト100」ランクイン

アレチウリ

原産地: 北アメリカ

汚れた川原やゴミ収集地のまわりに多く生えるつる性の一年草。成長するのがとても速く、一株あたり数100個もの種をつける。アレチウリが大量に生えている場所では、ほかの植物がほとんど育たないことも確認されている。全国の河川敷などで大繁殖していて、駆除が進められている。

写真: 環境省

オオカワヂシャ

原産地: ヨーロッパ~アジア北部

4~9月に花が咲く

在来の“カワヂシャ”より
葉のギザギザが浅く、
花の色が鮮やか

川岸や田んぼなどの水辺に生えている。在来の“カワヂシャ”と交雑すると雑種の“ホナガカワヂシャ”が生まれることが確認されていて、日本固有の“カワヂシャ”の遺伝的攪乱が問題になっている。

写真: (地独) 大阪府立環境農林水産総合研究所

ナガエツルノゲイトウ

原産地: 南アメリカ

もともと観賞用の水草として輸入されていた。繁殖力が強く、在来の水草と競合したり水流を妨げたりして水生生物の生活に悪影響を及ぼすことが確認されている。ニュージーランドでは、ナガエツルノゲイトウの繁茂が洪水を悪化させたとの報告もある。



4~10月に
白い花が咲く

茎の長さ1m以上

写真: (地独) 大阪府立環境農林水産総合研究所



ピロッドの
ような葉っぱ。
水をはじく

水面からの高さは
10cmくらい

「日本の侵略的外来種ワースト100」ランクイン

ボタンウキクサ

原産地: アフリカ

水面を覆い隠すように繁茂して水中に届く光を遮ってしまうので、水温を下げたり、水中の酸素不足を引き起こしたりと、ほかの生物の生活環境に悪影響を与える。また、水流を妨げ、水質を悪化させもする。ボタンウキクサの影響で在来のウキクサが絶滅寸前に追い込まれたり、魚が被害を受けた例もある。

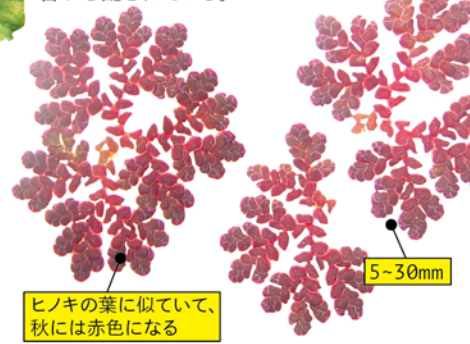
写真: 環境省

アズラ・クリスタータ

(通称: アメリカオオアカウキクサ)

原産地: アジア、アフリカ、南北アメリカ

胞子で増える水生のシダ植物。カモのエサとして“アイガモ農法”のために取り入れられ、日本各地に侵入。夏の繁殖力は旺盛で、繁茂しすぎると、稲が倒れる原因になることもある。また、在来で絶滅危惧種の“アカウキクサ”、“オオアカウキクサ”との競合が心配されている。



5~30mm

ヒノキの葉に似ていて、
秋には赤色になる

写真: (地独) 大阪府立環境農林水産総合研究所

ミズヒマワリ

原産地: 中央~南アメリカ

かつては観賞用や水質浄化用として、国内でも栽培されてきた。繁殖能力がとても高く、ちぎれた茎からも根を出して成長する。ほかの水生植物を駆逐する、水中の酸素濃度が下がって魚類の生活が脅かされるなど、生態系への悪影響が大きい。



夏に白い
花が咲く

川岸や沼、水路
など水流の弱い
ところに生える

高さ50cm~1m

写真: (地独) 大阪府立環境農林水産総合研究所